

(大問2) 小問2-1

| | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|
| 受験番号 | 万 | 千 | 百 | 十 | 一 |
| 氏名 | | | | | |

所定の欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

2020年度
早稲田大学 人間科学部
公募制学校推薦入学試験
FACT 選抜

【論述試験】

解答用紙

2 枚目 / 2 枚中

2020年度の解答用紙のサイズはA3判でした。なお、公表されている解答用紙は、実際の試験で使用されたものと細部が異なっている可能性がありますのでご了承ください。

(A)

大問2 小問2-1 (A) (B) (C)

【出題の意図】

人間の行動が小さい動作単位の連鎖として分析できることについて、「事前課題」と「大問1」を通じて確認されました。ここではさらに踏み込んで、人間の動作の系列を「アルゴリズム」の一種として捉える観点を導入し、その人間の行動アルゴリズムが状況(この場合は、Tシャツの並び方の違い)によって変化しうることを理解し、その理解を適切に文章等として表現できるかどうかが問われています。

(B)

(C)

(大問2) 小問2-2

大問2 小問2-2

【出題の意図】

ある出来事に関連する複数の要因がその結果に影響していく様子について検討するために、数式で表現された「モデル」を使用してシミュレーションする場合があります。ここでは、「モデル化」された現象が、与えられた条件の下でどのように変化するかについて読み取ることを通じて、自身の考えを整理し、的確に表現することが求められています。

(大問2) 小問2-3

大問2 小問2-3

【出題の意図】

科学論文には英語で書かれたものが多く、辞書の力を借りつつ英語論文を読み、その内容を理解することが大学での研究においては必要です。ここでは英語で書かれている文章の内容について、掲載されている単語リストを利用しながら読み取り、自身の考えとともに日本語で表現することが求められています。

(大問2) 小問2-4

大問2 小問2-4

【出題の意図】

自然現象や社会現象には、その振る舞いに影響を与える多数の変数が含まれていると考えられます。ある現象の振る舞いを予測するためには、現象に影響を与えている変数を特定し、また、それらの変数が相互作用するメカニズムを明らかにする必要がありますが、多くの自然現象や社会現象はあまりにも複雑であり、またその変数を自由に操作することができないため解析には困難を伴います。しかし、どのような現象であってもそれを「モデル」に置き換えることができれば、変数を主要な少数のものに限定し、その変数を調整しながら調べたい現象の振る舞いについて検討することができるかもしれません。このような「モデル化」は、科学的に物事を検証するための代表的な手法であるため、その基礎的な内容として主要な変数を自身で設定し、それらに関係づけることができるかどうかを問いました。なお、ここでは「モデル」を数式で表現すること自体は必ずしも必要ではなく、日本語で適切に説明されていれば大丈夫です。